

ぞらま

Interior-HOSOI mail magazine
Vol. 50 made by G.Y.K

題して うらほそ。

今回は、インテリアホソイ内装工事部

山田主任編!

#01

僕、昔パティシエしてました。



YAMADA
NAOTO

今回は、私達内装工事店のうらの裏を見せちゃうぞ!スタッフの思いや発信をまとめちゃうぞ!題して「うらほそ」を差し込みいたします。うらほそ初ゲストは、インテリアホソイのランドリー事業部で3年、内装工事部で4年働かれている山田主任にお話を伺いました。

パティシエから内装工事業へ

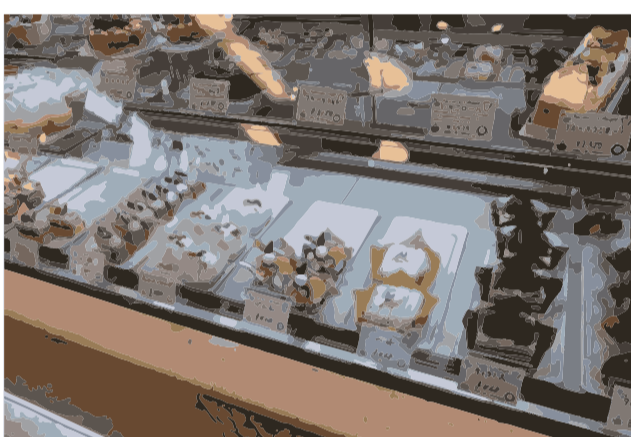


▲大好きなお菓子を作れるようになって自分のお店を持ちたいと思っていた頃。

ケーキ店での夢と苦勞

普段は無口で黙々と業務をされている山田主任の前職はパティシエ。10年程修行されてきた経歴をお持ちです。物心つくころから大のお菓子好きで、「大好きなお菓子を作れるようになって自分のお店を持ちたい」と強い思いで1年制の製菓専門学校に入学。1年後には、子供の頃から食べ慣れていたケーキ屋さん就職。その後も修行場所を変えながら腕を磨かれていたそうです。

勤めたケーキ店によって、勤務体制はまちまちだったようですが、あるお店では朝8時から次の日の朝9時まで働き、睡眠は休憩室で1時間。という怒涛の日々を過ごしていた時期も。ケーキを心待ちにしているお客様を思い、「とにかくなんとかなければ」という強い気持ちで働かれていたそうです。



▲「今思うと、『THE 昭和のケーキ屋さん』に勤めてました。チーズケーキ、タルト、チョコレートケーキ、シュークリーム…ナポレオンとかフォウレルとかヴィセンテとか…難しい名前のケーキは無かったなあ。」

ケーキ店で鍛え上げられてきた事

パティシエの修行時代で、師匠から言われ続けてきたことは、『無駄な動きをしないこと。』ケーキ作りは、材料出し、生地混ぜ、型入れ、焼き、その間のクリーム作り…工程が沢山あります。在庫確認や発注も確認しながらの作業では、秒単位で仕事に追われていたそうです。その為同僚と工程の話し合いをしながら、生地を混ぜたり物を取りに行く時は、最短コースを通るようになり…。とにかく効率的に動くように鍛え上げられたそうです。

パティシエからカーテンランドリーへ

パティシエとしてそろそろ独立しようかと思っていた10年目の頃、穀物価格の高騰や輸入飼料が高騰したことで、バター不足や材料の値上がりで深刻化。無念にも夢を諦めることに。当時36歳だった山田さんは新しい職を探そうと決意。職安で「未経験 京都市」と検索して出てきたインテリアホソイのカーテンランドリーの仕事に飛び込みました。



▲ランドリー車。「当時ランドリー事業部と聞いて、パティシエ時代に制服を定期的に回収にくる普通のクリーニング業者と同じ仕事だと思っていたら、全く違いました。」

カーテンランドリーから内装工事部へ

そんな中、コロナウイルス蔓延により、会社の方針で内装工事部強化をすることに。山田さんも内装工事部異動になりました。

「内装工事の仕事をする中で、前職パティシエとして心がけてきた在庫確認、材料発注のスケジューリング、最短ルートでの動作、ケーキの仕上がりに対する工夫が、今に繋がっているかもしれない。どこに時間を割く方が良いのか考えて工夫して動いている気がします。まだまだですけどね。」と山田さん。内装工事では採寸が、番好き。とのこと。「自分で採寸したものが想像通りに納まると達成感があります」とニコッと話してくれました。

内装工事部でのこれから

今までを振り返り、山田さんはこのように話してくれました。パティシエ時代は、自分で良いと思ったものを作り、気に入った人が買ってくる、という感覚で働いてました。しかし、内

装仕上げ業は全く逆で、お客様からの要望を聞いて1から作り上げて行く。この仕事に慣れて、ケーキも内装もお客様が欲しいと思うものを作っていく行動と工夫することが大事やなっています。

「内装工事の仕事をやる中で、前職パティシエとして心がけてきた在庫確認、材料発注のスケジューリング、最短ルートでの動作、ケーキの仕上がりに対する工夫が、今に繋がっているかもしれない。どこに時間を割く方が良いのか考えて工夫して動いている気がします。まだまだですけどね。」と山田さん。内装工事では採寸が、番好き。とのこと。「自分で採寸したものが想像通りに納まると達成感があります」とニコッと話してくれました。

山田さん、普段は寡黙なんですけど、内に秘めた思いがひしひしと伝わり、心が温かくなりました。

今回のゲストは…
じゅじゅつなぎ!
山田氏が気になる人に
繋ぎます。
お楽しみに!



▶固定概念に囚われない納め方や、やり方を考える事が好きです。結婚式のカーテンを納める仕事は、工夫をこらして施工する仕事だったので、とてもやりがいがありました。